資料２

「第１回　生活の安全と豊かな環境を目指す小委員会」

における主な意見

１．多発する自然災害

(1) 安全で安心できるための生活を実現する上でどのような社会基盤整備が必要か。

- 都市と地方の高齢者の交流など、前向きな仕組みを仕掛けなければ安全も成り立たない。それから、安全安心では福祉も大事な視点である。
- 今後、議論すべき点として、九州が多く抱える離島の問題がある。離島の安全・安心問題は、陸続きである中山間とは違った側面がある。例えば、奄美以南の島で大規模災害が発生した際の救援体制については、より近距離にある沖縄県警が鹿児島県警に協力するとの覚書が平成１８年１月に締結されている。同様のことが、長崎県と佐賀・福岡県警との間で結ばれているということも聞いている。このように交通面で隔絶した離島地域の安全・安心を、どう幅広く確保していくかという点は重要である。

２．多様かつ重要な自然環境、資源

(1) 循環と共生の観点から自然共生型社会の構築を実現する上で、どのような仕組みづくりが必要か。

- 豊かな自然には投資が必要であることを忘れてはいけない。佐賀県に見られる「緑税」のような考え方を導入し、九州全域が負担して投資しなければ持続可能とはならないのではないか。このような仕組みについて整理して欲しい。
- アジアを考えた際、環境面が成長の隘路となる。水俣や北九州の経験を活かして環境という面で貢献していくという視点も重要だ。農業も同様にアジアとどうつながるかが大事な視点。
- 安全や環境については、全体のマネジメントシステムが特に大事。誰がどういう仕組みで九州圏をマネジメントするのか。個別の課題対応は地域や地元で出来るが、大きな課題について、そして全体での投資額の配分について、マネジメントの全体像を検討することが必要である。
- 有明海でみても４県が関係者。マネジメントをどう行うのか、考えていく必要がある。
- 渇水は世界中で大きな問題になっている。気候変動もあり、将来をどう考えておくかが大事。

- 環境を考える際には流域管理が大事。九州は森林面積が広く、特に人工林が多い。小河川であっても流域には数万人が住んでおり、災害による流出で大きな被害となっている。また中山間地では市町村合併が進んでおり、中心部と末端集落で状況が違う。全国対象のアンケートによれば、消滅のおそれのある集落の約４割に産業廃棄物が持ち込まれているとのこと。

(2) 美しい九州の圏土を目指すうえで、地球規模の環境問題にどのように対処すべきか？

- キーワードのひとつは持続可能性だ。その重要な点が、エネルギーだと思うが、その議論は必要ないのか。国策であるから、目標をもらうという整理か。Ｃｏ2の排出権のように、都市と地方でやりとりできるような仕組みを考えなくてよいだろうか。少なくとも九州圏でできること、自然エネルギーのようなローカルエネルギーの活用については検討すべき。
- 離島の小規模自治体の財政事情は厳しさを増しており、漂着ごみ問題など離島ならではの対策を取り上げて欲しい。